

## ⑦-1 中神地区 復興まちづくり計画

対象地域 中神町字城本、段、馬場

中神地区は、流域治水プロジェクトに基づく遊水地整備計画を前提に、住まいの再建やコミュニティ活動の活性化、農地の復旧や遊水地整備に伴う農地の移転・交換、避難路・避難所の見直し等の取組を進めます。なお、遊水地については、国の検討状況を確認し、引き続き協議・調整していきます。

### （1）地区の復興まちづくりに向けた主な課題

#### 取組の柱① 被災者のくらし再建とコミュニティの再生

##### 住まいの再建

##### □住まいの再建における安全性の向上

○暮らしを安定させるための住まいの再建や、まちづくりと連携した住まいの安全性を高める方策の検討が必要です。

##### 地区別懇談会での主な意見

- ・現地再建を考えているが、治水対策、遊水地がはっきりしないと決めきれない。
- ・嵩上げなどの対策が必要。
- ・家を再建するため、周辺の洪水対策状況（道路や堤防等の計画）を教えてほしい。
- ・嵩上げ、道路拡張は実現できるのか。嵩上げを実行するには遅いのではないか。

##### □住民の負担軽減に向けた取組

○住まいの再建や住まいの安全性を高める方策にあたり、住民の負担軽減に向けた取組の検討が必要です。

##### 地区別懇談会での主な意見

- ・嵩上げに関する費用は住民負担と聞いている。宅地の安全性を高めることは重要だが、個人の負担が増えるのは現実的ではない。
- ・住宅再建するに当たり、資金面の支援が欲しい。
- ・現在は相良町の市有地で災害公営住宅の建設が発表されているが、地域のコミュニティを維持する意味でもせめて中原校区内にも災害公営住宅を建設して欲しい。

### コミュニティの再生

#### □コミュニティ衰退からの脱却

○現地再建する世帯と移転する世帯がいる中で、交流の場としての温泉の再建も図りながら、コミュニティの維持・再生を図ることが必要です。

##### 地区別懇談会での主な意見

- ・温泉が再建できるか。温泉は地域の交流の場なので残したい。
- ・移転する世帯も移転先のコミュニティに不安がある。
- ・被災前のようなコミュニケーションがとれていない世帯がある。
- ・仮設住宅に入っている方は、地元の会合に参加することが難しい状況にある。会合自体もコロナ禍の影響で、回数が減り参加者も減少している。

### 取組の柱② 力強い地域経済の再生

#### なりわいの再建

##### □農地の復旧と農業の継続

○水害により被災した農地の復旧を進めるとともに、遊水地整備に伴い農地の移転・交換を行う必要がある中で、土地所有者や営農者の意向を踏まえながら、新たな農地や新たな営農形態で農業の継続を図ることが必要です。

##### 地区別懇談会での主な意見

- ・先祖伝来より守り続けてきた農地や住まいであり、ないがしろにできない。
- ・堆積土砂の撤去、農地復旧、耕土の復旧等が必要。
- ・圃場整備された優良農地の代替地の確保が必要。
- ・農機具も古くなり、営農を続けていくには難しい状況。
- ・営農者の後継者不足、高齢化の状況がある中で、営農意向のある方と遊水地希望の方との交換ができないか。何らかの形で治水に役立ててもらいたい。

### 取組の柱③ 災害に負けないまちづくり

#### 避難対策

##### □安全な避難ルートの確保

○避難所・避難場所に向かう避難ルートが急勾配で狭い現状を踏まえ、安全に避難できる避難路の整備が必要です。

##### 地区別懇談会での主な意見

- ・あきだん坂が急勾配で、道幅が狭く、避難できない。地区内の道路には行き止まり区間がある。拡幅するだけでなく、現状の農道から市道にしてほしい。
- ・中原小学校に向かう道路が急勾配。
- ・避難ルートの道路側溝が詰まり、氾濫し危険な状態。
- ・徒歩による避難者にとっては、避難時の荷物も限られ、負担になる。

### □避難所の見直し・改善

- 地域から指定避難所が遠く、空調設備が不十分といった現状を踏まえ、指定避難所の見直しや避難所の機能の改善を図ることが必要です。

#### 地区別懇談会での主な意見

- ・生涯学習センターや中原公民館が遠い。
- ・避難所の中原小の開設には1時間要し、開いていたのが1時間だけであった。
- ・体育館にクーラーがなく、夏場は大変。（現在は設置済）。
- ・指定避難場所の中原コミュニティセンターは、当該地域から遠いため、地区ごとに細かく整理したほうがよい。

### □安全な避難方法の確立

- 令和2年7月豪雨では、防災無線のアナウンスが聞こえなかったため、別の情報入手手段の用意が必要です。また、夜間はライブカメラの映像も水位の判断がしづらいため、複数の情報入手手段を確立しておく必要があります。

#### 地区別懇談会での主な意見

- ・防災無線による避難情報の伝達。
- ・就寝中のため発災時の携帯アラームに気づけなかった人がいる。
- ・上流部の降雨状況によって、河川の水位が予見できるため、上流部の降雨状況がわかる情報システムが出来ないものか。
- ・避難路を利用する上で必要な視界を確保してほしい。（照明灯の増設、路上に伸びた樹木の伐採等）

## 治水・土砂災害対策

### □遊水地計画への対応

- 流域治水プロジェクトに基づく遊水地整備計画を前提に、遊水地整備に伴う農地の移転・交換により営農希望者が農業を続けられる環境を確保するとともに、遊水地と周辺の住宅地や農地の景観が調和した整備を進めることが必要です。

#### 地区別懇談会での主な意見

- ・遊水地に係る詳細な情報提供が必要。
- ・水害が起きないような有効な治水対策としての活用。
- ・自宅への影響、水面の高さ、遊水地化に伴う景観、土地利用がどうなるか。
- ・遊水地は下流域のためのもの。上流域との協力が必須。

### □治水対策

- 令和2年7月豪雨では、堤防の損傷と氾濫流により家屋の浸水が発生したことから、国・県の治水対策と連携し、球磨川本川や万江川・馬氷川など球磨川支川の氾濫対策を推進す

る必要があります。

#### 地区別懇談会での主な意見

- ・市房ダムの計画的な放流。球磨川本川の治水対策が必要。
- ・万江川、馬氷川など球磨川支流のバックウォーターへの対応が必要。
- ・予測できない豪雨に対するダム管理への不安。

#### □排水施設の見直し

- 排水施設が老朽化し、樋門に至る道路が遮断される状況も発生しており、排水施設の見直しや排水施設に至る道路の安全性の向上が必要です。

#### 地区別懇談会での主な意見

- ・排水施設の老朽化や排水能力の不足による道路の遮断があった。

#### □土砂災害への対策

- 住宅地の後背の崖地付近が土砂災害警戒区域／特別警戒区域に指定されていることから、土砂災害への対策を取ることが必要です。

#### 地区別懇談会での主な意見

- ・崖地付近が土砂災害警戒区域／特別警戒区域に指定されている。

### 復興まちづくり

#### □地域の自然環境や景観の保全

- 遊水地整備計画との調和を図りながら、中神地区が持つ地域の自然環境・景観を保全することが必要です。

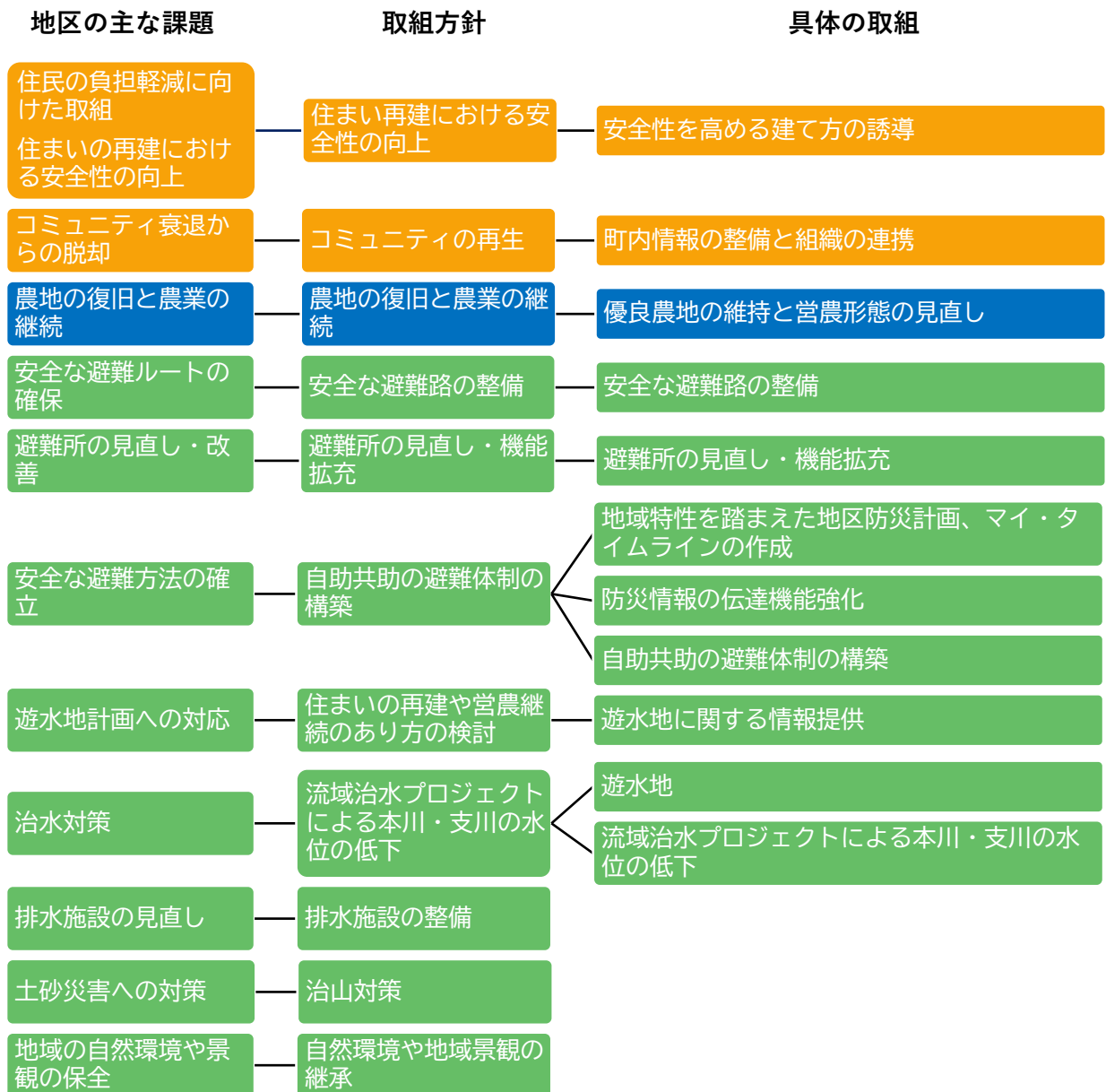
#### 地区別懇談会での主な意見

- ・春にはレンゲ畑となり、緑が一面に広がる。シラサギやトンビもたくさん飛来する。冬は田んぼ（低地）と高台とでは気温差がある。空気がおいしく、山、空、川の風光明媚な場所なので、この風景がなくなるのはさみしい。
- ・管理を容易にするとともに、地域の景観にも考慮された遊水地としてほしい。

（2）課題解決のための取組

【復興まちづくりの目標】

中神地区の住まい、農地、自然環境と遊水地の景観が調和したまちづくり



## 取組の柱① 被災者のくらし再建とコミュニティの再生

### 住まいの再建

#### 取組方針1：住まい再建における安全性の向上

- ・現地での住まいの修復や再建など、早急な生活再建を図るとともに、治水対策の状況も踏まえ、嵩上げなど安全性の向上を図ります。
- ・仮設住宅に暮らす方が現地（元の場所）で安全安心に暮らすことができるような体制を構築します。
- ・商業地の復旧の再生だけでなく農村部分の復旧についての情報発信を行うなど、偏りのない情報発信を行います。

#### 具体の取組

##### 安全性を高める建て方の誘導

- ・建物1階のピロティ化、浸水深以上の居室の確保。
- ・建物構造の耐水化。
- ・宅地の盛土・嵩上げ。
- ・安全な宅地への移転。
- ・豪雨災害以外の台風などの災害に対応した設備改善。
- ・堤防に接した宅地の復旧。
- ・堤防の将来計画（築堤高）や熊本地震の影響による地盤のゆるみを考慮した対策。
- ・河川沿いに生い茂る樹木の処理。

### コミュニティの再生

#### 取組方針2：コミュニティの再生

#### 具体の取組

##### 町内情報の整備と組織の連携

## 取組の柱② 力強い地域経済の再生

### なりわいの再建

#### 取組方針3：農地の復旧と農業の継続

- ・流域治水プロジェクトに基づく遊水地の状況を踏まえながら、農地の復旧、農地の移転・交換、優良農地の維持、営農形態の見直し等による農業の継続を図ります。

#### 具体の取組

##### □優良農地の維持と営農形態の見直し

- ・農地の復旧。
- ・優良農地の代替地の確保。農地の移転・交換。
- ・営農形態の見直し（集落営農、営農法人等）。
- ・遊水地計画について早急な情報提供。

## 取組の柱③ 災害に負けないまちづくり

### 避難対策

#### 取組方針4：安全な避難路の整備

- ・高台や避難所への安全な避難路の整備を進めます。
- ・市道の嵩上げについて検討します。

#### 具体の取組

##### □安全な避難路の整備

- ・高台への避難路の整備・拡幅、離合場所の設置、沿道の急傾斜地の対策。
- ・排水溝の設置。洪水時の転倒などを防ぐため側溝の蓋掛け。
- ・避難路における低地部分の水たまりの改善。
- ・深夜に災害が起きた場合を想定した、樹木の伐採や街路灯の整備。

## 取組方針5：避難所の見直し・機能拡充

- ・指定避難所・自主避難所の見直し、感染症予防に対応した避難所の分散化、避難所の機能強化を図ります。

### 具体の取組

#### □避難所の見直し・機能拡充

- ・指定避難所・自主避難所の見直し。避難所の空調設備等の拡充。
- ・避難所の運営方法の改善。個々の災害弱者に対応したきめ細やかなレイアウト・配置、避難所内での情報伝達媒体の改善。
- ・避難所（小学校等）の段差をなくすスロープの設置、トイレの高齢者対応（洋式トイレ、数を増やす等）、バリアフリー化の対応。

## 取組方針6：自助共助の避難体制の構築

- ・避難情報の確実な伝達を行った上で、町内での共助により要支援者の避難行動を支援する仕組みや体制づくりを進めます。
- ・防災無線が聞き取りやすいように改善します。

### 具体の取組

#### □地域特性を踏まえた地区防災計画、マイ・タイムラインの作成

- ・地区の災害リスクを踏まえた地区防災計画の作成。
- ・避難のタイミングを判断する地域独自の「きっかけ」の検討。

#### □防災情報の伝達機能強化

- ・各世帯への戸別受信機の配布（市より、6月から順次配布）。
- ・防災ラジオの使用（持ち運びが可能で、高齢者でも簡単に使える）
- ・避難のタイミングの明確化や増水状況の指標の設置。（警告灯、サイレン）

#### □自助共助の避難体制の構築

- ・町内支援ネットワークを支える「サポーター」の仕組みの構築。
- ・実際に起こり得る状況を想定した、地区単位での避難訓練の実施。
- ・地区内の要支援者リストとその避難を支援する住民のリストの作成。



## 治水・土砂災害対策

### 取組方針7：遊水地計画を踏まえた営農継続のあり方の検討

- ・国からの遊水地の整備内容等を踏まえ、遊水地の範囲内外の農地の移転・交換を支援するとともに、営農継続のあり方を検討します。

#### 具体の取組

##### □遊水地に関する情報提供

- ・国からの遊水地や流域治水に関する説明や協議の場を設ける。
- ・遊水地整備に関する住民・地権者の意向把握。
- ・遊水地整備内容を踏まえた遊水地範囲内外の農地の移転・交換の支援

### 取組方針8：流域治水プロジェクトによる本川・支川の水位の低下

- ・本川・支川の水位の低下に向け、上流から下流、集水域から氾濫域までの治水対策に総合的に取り組みます。

#### 具体の取組

##### □流域治水プロジェクトによる本川・支川の水位の低下

- ・流水型ダム整備、市房ダム再開発、河道掘削、遊水地整備等
- ・災害時の内水排出のポンプの自動化。
- ・大柿地区の毘沙門の所や小柿公民館より上の高さに堤防を作る。
- ・気候変動に対応し、普段のダムの管理を徹底する。
- ・瀬戸石ダムの運用の検討。
- ・河川の掘削。

### 取組方針9：排水施設の整備

- ・排水機能の抜本的な見直しを行います。

### 取組方針10：治山対策

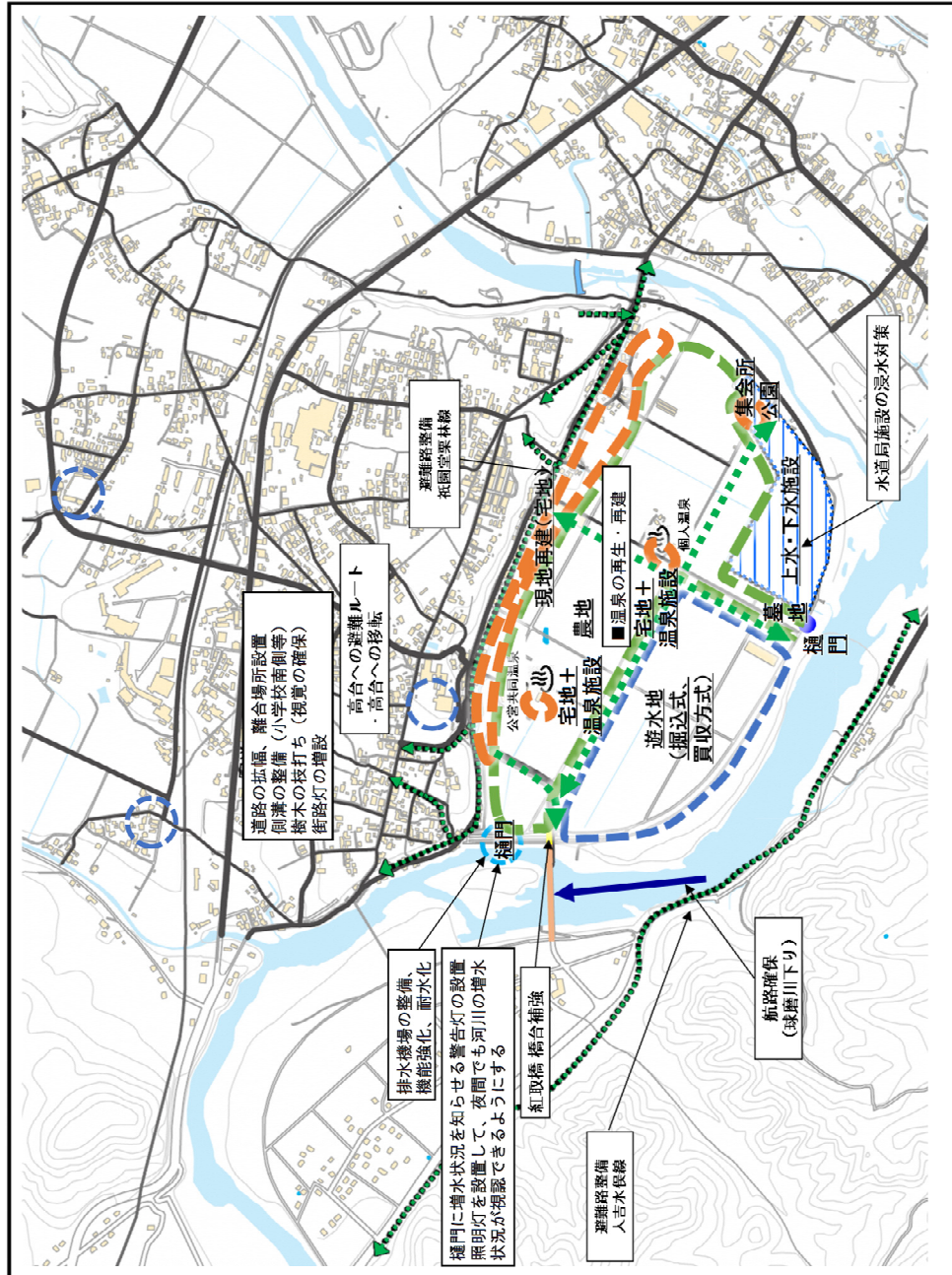
- ・橋の流出対策として、山の流木が流れ込まないように、緑の流域治水として治山も考慮します。

## 復興まちづくり

### 取組方針11：自然環境や地域景観の継承

- ・中神の美しい自然の再生を図ります。

中神地区 復興まちづくり計画【地区整備方針・避難ルート図】



- 凡例
- 河川整備方針の確認
  - 避難路(現況)
  - 避難路整備
  - 避難場所、避難所